平成７年度京都府内遺跡発掘調査成果速報

第 14 回

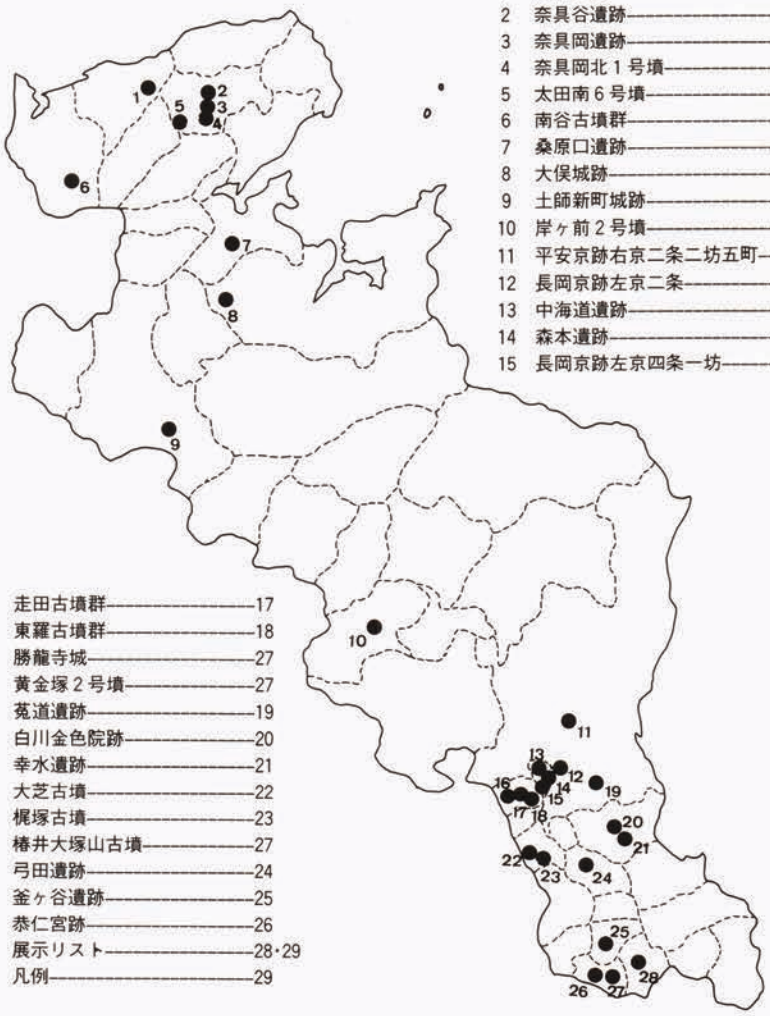
小さな展覧会

1996.8.17～9.1

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

目　次

	遺跡名	頁
1	横枕遺跡	2
2	奈具谷遺跡	3
3	奈具岡遺跡	4
4	奈具岡北１号墳	5
5	太田南６号墳	6
6	南谷古墳群	7
7	桑原口遺跡	8
8	大俣城跡	9
9	土師新町城跡	10
10	岸ヶ前２号墳	11
11	平安京跡右京二条二坊五町	12
12	長岡京跡左京二条	13
13	中海道遺跡	14
14	森本遺跡	15
15	長岡京跡左京四条一坊	16
16	走田古墳群	17
17	東羅古墳群	18
18	勝龍寺城	27
19	黄金塚２号墳	27
20	菟道遺跡	19
21	白川金色院跡	20
22	幸水遺跡	21
23	大芝古墳	22
24	梶塚古墳	23
25	椿井大塚山古墳	27
26	弓田遺跡	24
27	釜ヶ谷遺跡	25
28	恭仁宮跡	26
	展示リスト	28・29
	凡例	29



展覧会開催にあたって

京都府埋蔵文化財調査研究センターでは、1995年度に44件の発掘調査を行いました。今回の展覧会では、そのうち注目された調査10件をとりあげ、京都府内の各関係諸機関の発掘成果18件と合わせて展示しております。

この展覧会の目的は、冒頭で述べましたように、前年度に京都府内で行われた発掘調査の成果を出土遺物や写真などによって紹介し、合わせて一般の方々に埋蔵文化財への理解を深めていただくことにありますが、そのためにも、よりわかりやすく、親しみやすい展示を心がけていくつもりであります。

今回の展覧会に後援をいただいた京都府教育委員会をはじめ、協賛をいただいた向日市文化資料館、いろいろとご協力賜わった各関係機関に対しまして、深く感謝申しあげます。

1996年8月

財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

理事長　樋　口　隆　康

表紙カット：陶質土器（奈具岡北1号墳）
人物埴輪（弓田遺跡）

横枕（よこまくら）遺跡　（網野町教育委員会）

9～13世紀
網野町字島津

▲　谷水田にねむる遺跡

▲　青磁椀と土師皿

施釉陶器と青磁椀

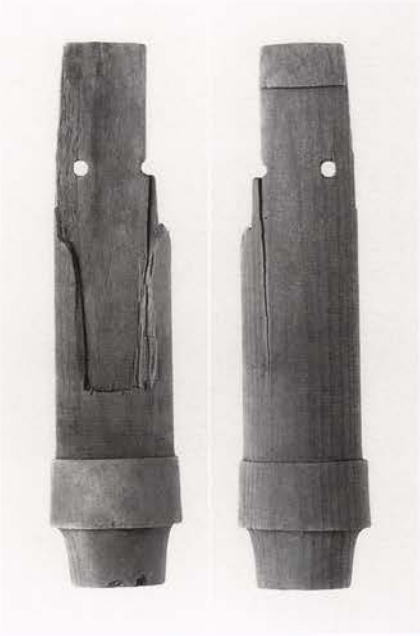
弥栄町との境界近く、旧道に沿って広けた谷間に展開する遺跡で、土師器・須恵器や京都系・近江系の緑釉陶器、灰釉陶器そして建物の柱材である柱根も出土しました。施釉陶器の出土比分率が高いことから、平安時代に官衙相当施設が存在していた可能性があります。また、龍泉窯劃花文青磁椀と土師器が組み合わさって出土しました。鎌倉時代のお墓です。字名「薬師堂」から、後世、調査地周辺付近に寺院を建立していたらしい。

奈具谷遺跡

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)

1世紀
弥栄町字溝谷

▲　狭い谷間に流路遺構



◀　柄状木製品

豊富な木製品

丹後半島の中央部、竹野川中流域には弥生時代中期の拠点集落として著名な奈具遺跡が立地している。その南隣りの谷水田下に広がる奈具谷遺跡では、杭と延板を駆使して水利・灌漑のための護岸施設を構築していました。溝内からは、弥生時代中期の土器や石器とともに、鞘や桶などの形状をした遺存状態の良い多種多様な木製品が出土しています。

▲　丁寧な水路遺構

奈具岡遺跡

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)

1世紀
弥栄町字溝谷

▲　丘陵の緩斜面を利用した玉造り工房跡

古代の宝石加工場

約2000年前の大規模な水晶玉工房跡が見つかりました。最古級・最大規模です。数棟の竪穴式住居跡内から、水晶原石から小玉・管玉・棗玉など完成直前までの製作工程がわかる未製品約数百点が出土しています。水晶玉には直径0.5mmの精巧な穴を開けたものもあり、鉄製のタガネやキリ・砥石等の工具を用いた最先端の技術を駆使しています。また、鉄片・鉄製品も多量に出土することから、朝鮮半島との交易や人的交流がうかがえます。

▲　水晶玉工房跡

奈具岡北1号墳（㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター）

5世紀
弥栄町字溝谷

▲　稜線上に築造された前方後円墳

▲　二基並んだ墓壙

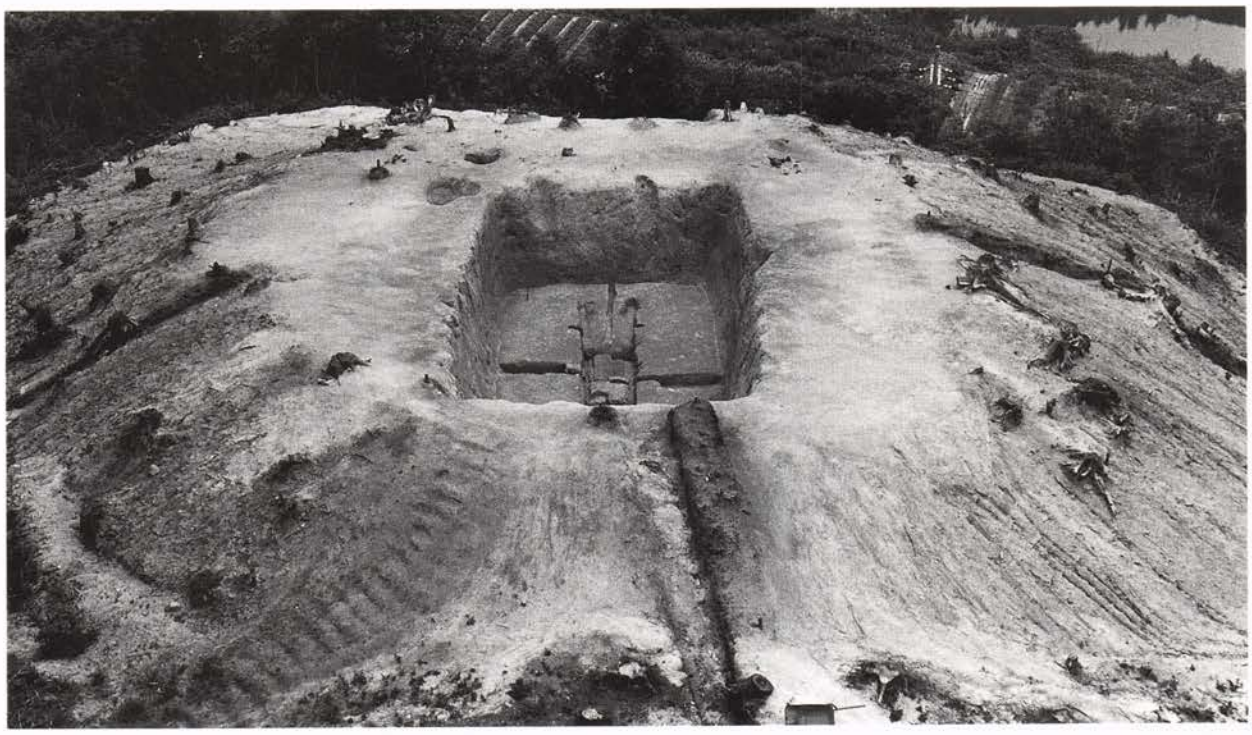
前方後円墳の被葬者は？

弥生時代中期に奈具谷・奈具岡遺跡の営まれた丘陵頂部には、5世紀前半頃に全長約60mの前方後円墳が築かれました。埋葬施設の一つから銅釧・石突や鉄矛・鉄鏃等の鉄製品とともに、須恵器のルーツとなる朝鮮半島南部の慶南地方の陶質土器や初期須恵器が出土しました。大陸との交渉が活発となる「倭の五王」の時代にあたり、その被葬者は大陸からの渡来人か、はたまた倭の将軍か、興味はつきません。

陶質土器・初期須恵器　▶

大田南6号墳（おおたみなみ）　（弥栄町教育委員会）

4世紀
弥栄町字和田

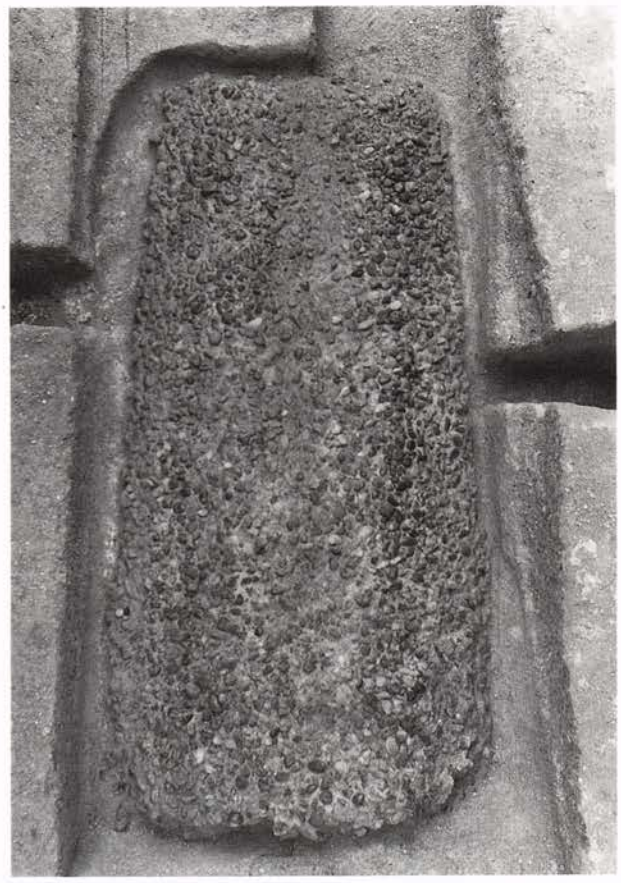


▲　大形墳丘と巨大な墓壙

特異な超大形墓壙

青龍三年銘方格規矩四神鏡や画文帯神獣鏡が出土した大田南古墳群を形成する古墳の1基から、9.6m×6.5m、深さ2.5mを測る墓壙が見つかり、その底面中央に組み合わせ木棺を安置していました。また、石釧2点のほかに、刀子、鉄鏃、ノミ状鉄製品や土師器などを副葬していました。

まるで木槨墓のような大規模墓壙は、他地域では少ない ですが、丹後地方では数例分布しており、独自性が色濃くにじみ出ています。



◀　木棺を納置した礫床

▶　碧玉製石釧

南谷古墳群（みなみたに）

（久美浜町教育委員会・
㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター）

6世紀
久美浜町字壱分

▲　丘陵上に展開する古墳群

在地有力者のお墓

佐濃谷川中流域の右岸丘陵上に築造された古墳群で、8基程度で形成し、その内4基が調査の対象になりました。すべて組合式木棺を内部主体とする円墳で、築造年代はいっしょに出土した須恵器から6世紀前半頃になります。出土遺物には小型仿製乳文鏡、玉類、鉄鏃などの鉄製品があります。

当時、丹後地方は横穴式石室導入期に当たっていますが、この古墳群には横穴式石室は見られず、その導入には新たな波を待たなければならなかったようです。

▲　副葬していた乳文鏡

供献された有蓋高杯　▶

桑原口（くわはらぐち）遺跡

（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター）

2～3世紀
宮津市喜多

▲　錯綜した住居跡群

▲　良好な保存状態で出土した土器

大手川流域の拠点集落か？

大手川右岸の台地上に営まれた集落跡で、遺跡の南端部が今回の調査で判明しました。円形・方形の竪穴式住居跡や掘立柱建物跡などの遺構があり、方形住居の一つから炭火材が見つかっていますので、焼失家屋の可能性もあります。

遺物の保存状態が良く、円形住居跡からは線刻文を描いた完形の手培り形土器が出土し、稀少な銅鏃も含まれ、遺跡の特異性が指摘できます。

大俣（おおまた）城跡

（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター）

16世紀
舞鶴市大俣

▲　勇壮な構えの山城

▲　曲がりくねった出入口と門跡

戦国時代の丹後争乱

大俣城は、標高85mの小高い丘陵に築かれた在地豪族の山城です。山頂部に主郭を築き、帯郭・桝型虎口・竪堀・土塁等を円形に巡らせた防御施設は、小規模ながらもコンパクトにまとめられており、織田信長の丹後進攻にさかのぼる中世城郭の様相が明らかになりました。中国製の青花の椀や白磁皿、瀬戸・美濃系の天目茶椀や灰釉皿、北宋銭、銅製の匙や碁石など、戦時に備えて山ごもりした様子が目に浮かびます。

土師新町城跡（はぜしんまち）

（福知山市教育委員会）

3世紀
福知山市土師

▲ 城跡の下層から見つかった住居跡群

◀ 住居の片隅から土器が出土した

中世城郭の下から古代の集落

福知山市の東南方、土師川を眼下に見下す丘陵上に、芦田氏の城館であった土師城跡があります。その一画を占める土師新町城の第2郭部分を中心にした発掘調査で、この城跡はそれ以前（14～15世紀）に築城されたことが明らかになりました。

その下層からは、弥生時代後期や古墳時代の竪穴式住居跡を検出し、円形住居跡の周壁部から長頸壺と器台が鉢や高杯などとともに2セット出土し、まるでその場所で祭祀を行っていたかのようです。

岸ヶ前2号墳（きしがまえ） （佛教大学）

5世紀
園部町字城南町

▲ 4基の主体部を設けた古墳

▲ 副葬された甲冑

武具を備えた古墳

新たに発見された古墳で、南北方向に長い20～30mの楕円形をしており、その墳丘北側にのみ葺石と円筒埴輪を使用していました。頂部には南北方向に3基並行で、東西方向に1基の計4基の木棺を配し、被葬者の差異を証明するかのように、各々に勾玉・管玉や鉄製短甲・鉄刀・鉄剣・鉄製農耕具・砥石などが副葬されていました。

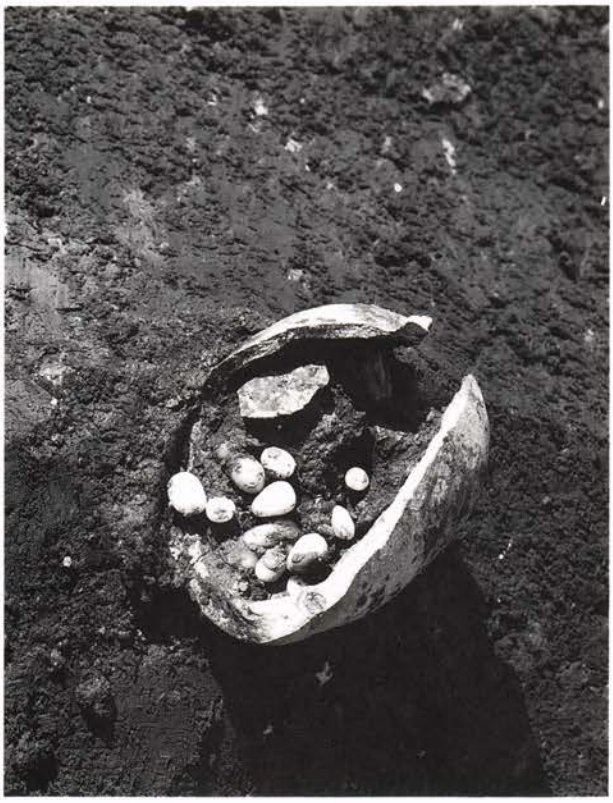
園部垣内古墳を築造した4世紀に引き続いて、政治的・軍事的に重要拠点であった園部町の姿が目に浮かびます。

平安京跡右京二条二坊五町（へいあんきょう）

（財）京都市埋蔵文化財研究所

8～10世紀
京都市中京区笠殿町

▲ 調査地全景



◀ 小壺埋納による祭祀遺構

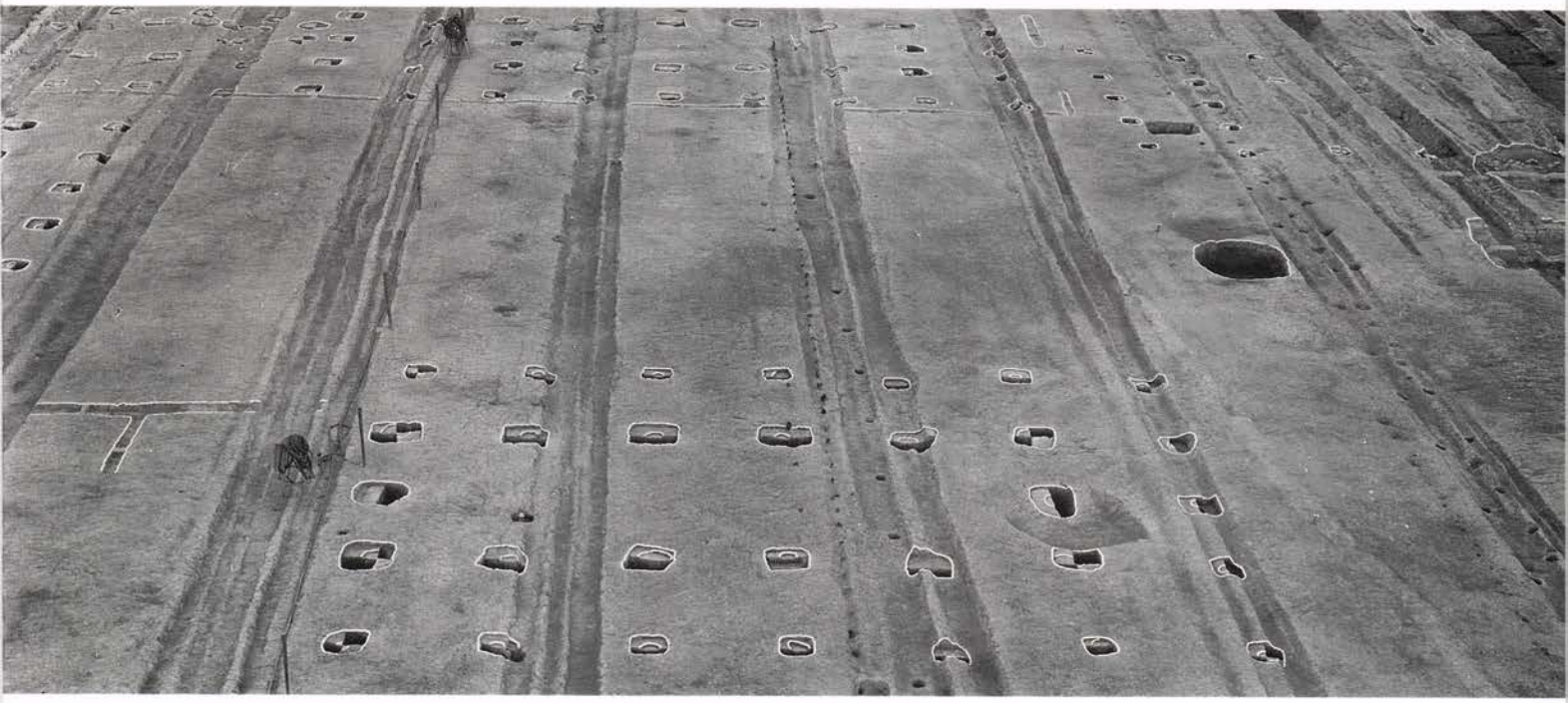
平安京の宅地と祭祀遺構

平安宮南面の大路・二条大路北側溝推定線上に9世紀代の道路側溝を検出しただけでなく、10世紀以降の道路改修痕も見つかり、平安京造営の町割基準がたいへん精巧であったことがわかりました。また、確認できた9～10世紀の掘立柱建物跡は、五町内の建物配置とその変遷を部分的に証明してくれました。注目すべきは、宅地内の流路に沿って10世紀の祭祀遺構が多数調査できたことです。壺と皿の組み合せ、甕内への貨幣納入、皿の2枚合せ、小壺埋納などに大別でき、平安貴族が行った祭祀のかたちがいろいろあったことをよく物語っています。

長岡京跡左京二条（ながおかきょう）

（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター）

前２～９世紀
京都市南区久世東土川町



▲ 整然と建ち並んだ建物跡

壮大な貴族の邸宅跡と東土川遺跡

長岡京跡の発掘史上、最大規模の調査で、三位以上の貴族の邸宅跡と推定できます。整然と配された建物跡などが一町内でみつかりました。ガラス玉を納めた二彩小壺を地鎮に用いた建物跡や、酒などを造った甕を据えた貯蔵用建物跡、東西南北と使用個所を墨書した板材を用いた横板井籠組の井戸などは、注目すべき遺構です。

下層には、弥生時代中期の集落を囲む環濠や方形周溝墓、水田等が展開し、当時の東土川の人々の生活が想像できます。

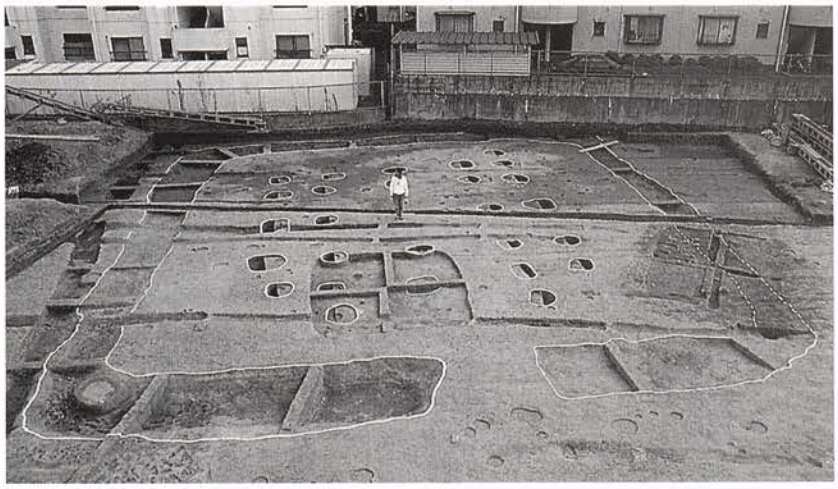
▲ 下層から発見された東土川遺跡

地鎮用の二彩小壺 ▶

中海道遺跡（なかかいどう）

（財）向日市埋蔵文化財センター）

3世紀
向日市中海道

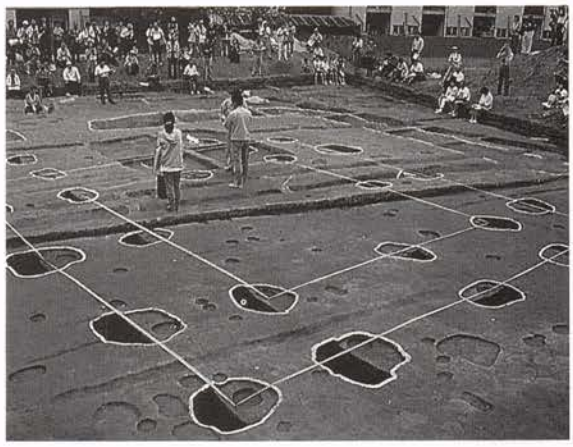


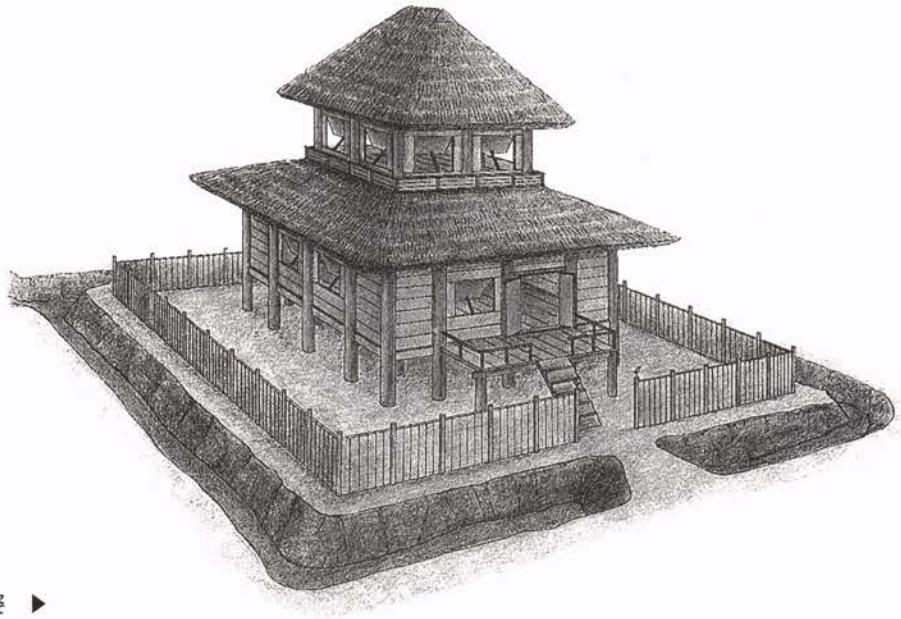
▲ 祭殿跡の全景

邪馬台国時代の祭殿跡

近年、西日本各地の遺跡で、邪馬台国の女王卑弥呼が活躍した時代にあたるのではないかと見られる大規模な建物跡が相次いで発見されています。向日市の中海道遺跡でも、この時期の巨大な四面廂建物跡が検出されました。掘立柱建物の四面に廂が付く形式としては、わが国の中でも最古のもので、建物の周囲には、方形の溝がめぐらされていました。弥生時代の末期における有力首長の居館か祭殿ではないかとみられています。

▼ 祭殿を支えた太い柱跡



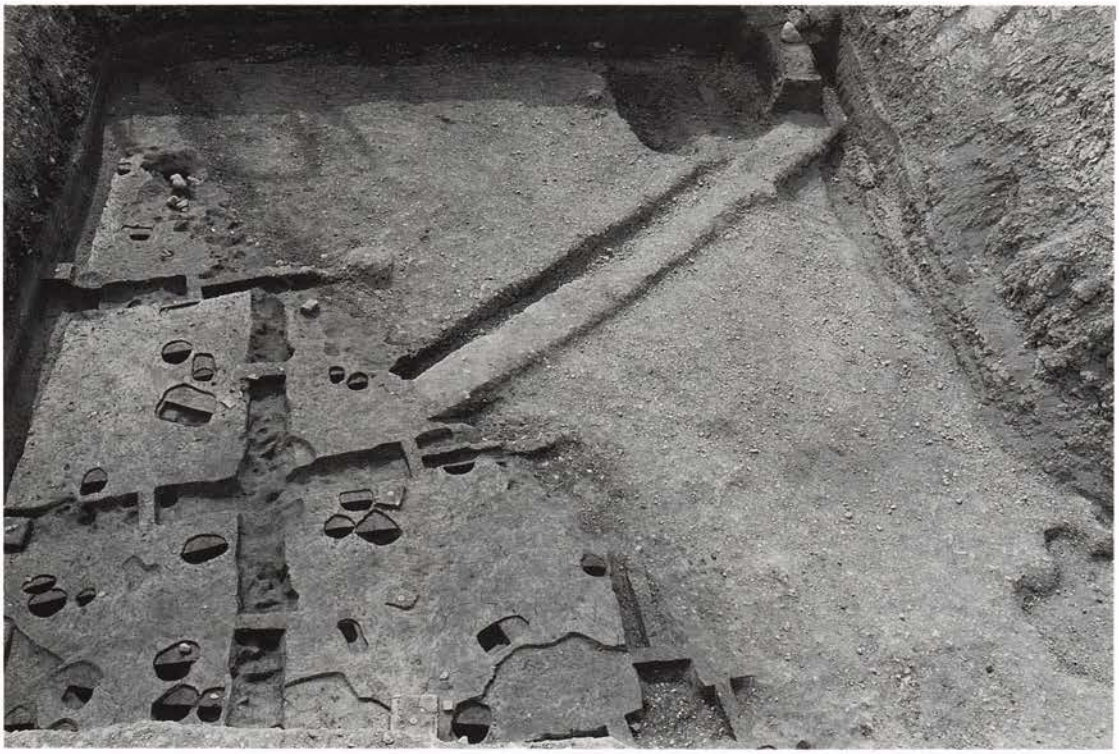


復元された祭殿の姿 ▶

森本遺跡（もりもと）

(財)向日市埋蔵文化財センター)
長岡宮跡第321次

前５世紀
向日市森本町

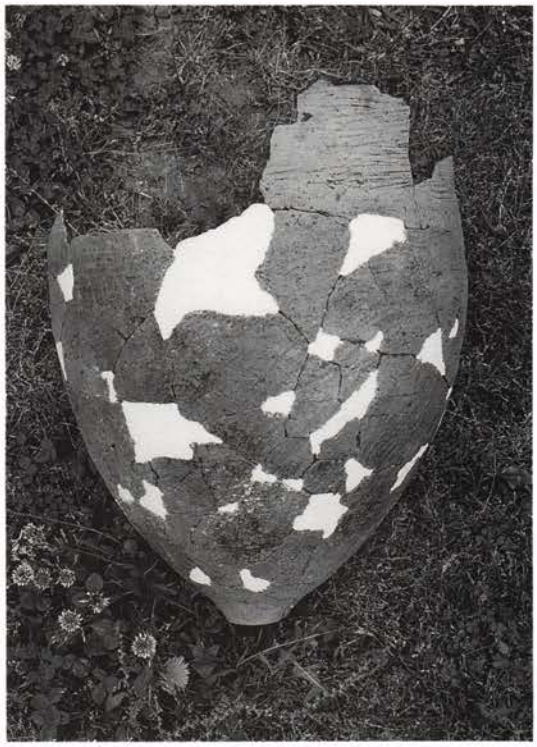


▲ 森本縄文村のくらしのあと

森本縄文村のようす

長岡宮跡を調査していると、それよりはるか以前の縄文時代の人々のくらしの跡が発見されることがよくあります。そうした調査成果をまとめて行くと、向日市森本町付近に縄文時代の終り頃にムラが営まれていたことがわかってきました。

この森本縄文村は、おおよそ南北500m、東西１kmほどの大きさで、居住地は北部と南部に分かれていたと思われ、人々の様々な生活の様子が見え始めてきています。

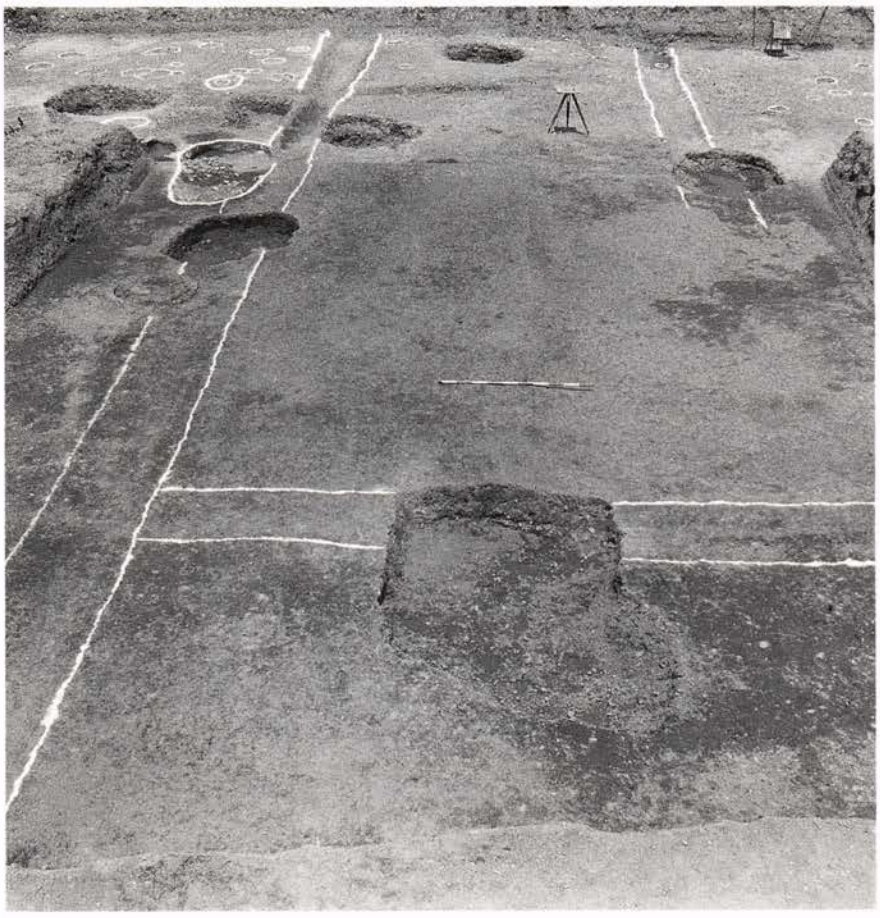


▲ 森本村の縄文土器

長岡京跡左京四条一坊（ながおかきょう）

（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター

8～9世紀
向日市上植野町



▲ 古代の交差点

▲ 大規模な土木工事

▲ 搬入された小型瓦

四ツ角と土木工事

碁盤目状の京域内道路のうち、四条条間小路と東一坊坊間東小路の交差点が見つかり、四条条間小路が部分的にしろ西の方へ延びないことや、平安時代の集落形成に伴って東一坊坊間東小路西側溝が掘り返されたこともわかりました。また、長岡京期以前に旧小畑川の流路改修のために打ち込んだ杭が約800本残存していました。

出土遺物中、平安時代前期の緑釉陶器・灰釉陶器などの高級調度品類や、大阪府吹田市岸部瓦窯産の小型軒瓦は、注目すべきものです。

▼ 高級な食膳具

走田古墳群（はしりだ）

(財)長岡京市埋蔵文化財センター)
長岡京跡左京第327・342次

7世紀
長岡京市奥海印寺

◀ 石室に残された石棺

長岡京の造営に利用された石棺

走田古墳群は、長岡京市奥海印寺の走田神社周辺に分布する古墳時代後期の群集墳で、これまでに7基の古墳が確認されていました。今回の調査で、新たに2基の横穴式石室をもつ古墳が発見されましたが、このうち9号墳からは家形石棺の一部が発見されました。9号墳からは、古墳が造られたときに副葬された須恵器のほかに、長岡京期の土器が出土しており、凝灰岩製の石棺が都の造営のために持ち去られたとも考えられます。

9号墳から出土した須恵器 ▶

東羅古墳群（とうら）

(財)長岡京市埋蔵文化財センター）
長岡京跡右京第496次

6～7世紀
長岡京市開田

▲ 鉄器が副葬されていた土壙墓

▼ 7世紀の土壙墓から出土した土器

古墳時代の土壙墓から出土した鉄器

古墳時代には、その名が示すようにたくさんの高塚墓である古墳が築かれますが、それは当時の権力者たちの墓です。一般の人々は、土壙墓と呼ばれるような簡単な墓に葬られ、副葬品もほとんど入れられませんでした。

しかし、今回、発掘調査が行われた東羅古墳群では、そんな土壙墓の中に、当時貴重品であった、のみ・やりがんな・鉄鏃といった鉄器が副葬されていました。特定の技能を持った、集落の有力者の墓と考えられます。

6世紀の土壙墓に副葬されていた鉄器 ▶

菟道（とどう）遺跡 （宇治市教育委員会）

7～13世紀
宇治市菟道

▲ 古代宇治の中心地菟道遺跡

郡衙の所在地かとみられる菟道遺跡

菟道遺跡は、最近の発掘調査によって、古墳時代から鎌倉時代にいたる長期間続く遺跡であることが知られるようになってきました。今回の発掘調査では、溝によって整然と区画された飛鳥時代から平安時代にかけての建物群や、当時の役人が使用したと思える帯金具などが大量の土器と共に発見され、古代の宇治地方の役所であった宇治郡衙跡ではないかと想像されています。遺跡からは、この他に鎌倉時代の古墓が検出されています。

▼ 帯金具や銅銭

白川金色院跡（しらかわこんじきいん）

（宇治市教育委員会）

12世紀
宇治市白川

▲ 白川金色院の中心施設文殊堂

金色に輝く文殊堂

白川金色院は、平安時代後期に関白藤原頼通の娘四条宮寛子（後冷泉皇后）によって金色に輝く御堂が建てられたことがその名の始まりとされています。金色院は、室町時代中期に焼失しますが、その後、再興されてからは16の坊を数える広大な寺域を持つ寺として発展します。今回の調査では、創建時の中心建物であった文殊堂と考えられる巨大な建物跡が発見され、同時に仏像の光背部分と思える金箔片やガラス小玉などが出土しています。

▲ 仏像を飾っていたガラス玉

幸水遺跡（こうすい）　（八幡教育委員会）

1～3世紀
八幡市美濃山

▲ 幸水遺跡の方形周溝墓

南山城初の方形周溝墓群

八幡市の幸水遺跡で、弥生時代中期後半の方形周溝墓が11基、弥生時代後期後半から古墳時代にかけての木棺墓が多数発見されました。方形周溝墓は、当時の家族墓と考えられますが、これほど多数が群集した遺跡の発見は南山城では初めてのことです。また、弥生時代後期後半の木棺墓からは、当時貴重であった鉄製工具のやりがんなが出土しています。

▲ 方形周溝墓から出土した弥生土器

大芝古墳（おおしば）　（八幡市教育委員会）

5世紀
八幡市女郎花

▲ 姿を現した大芝古墳

埋没していた中期古墳

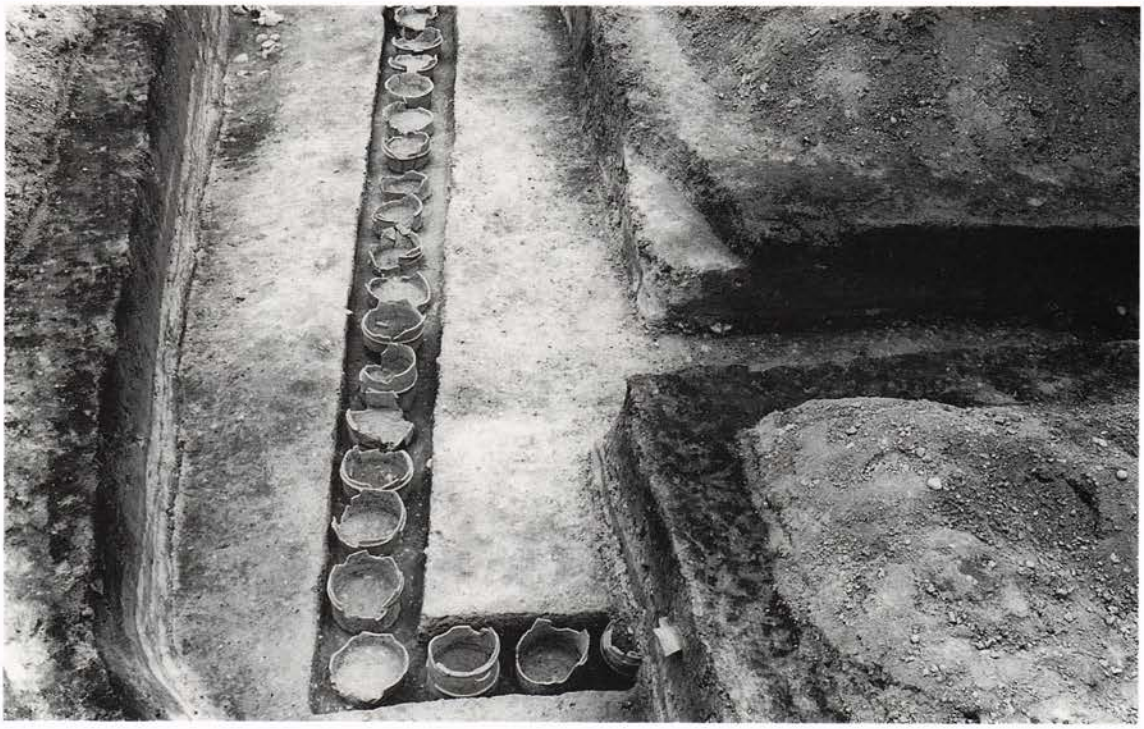
八幡市は、西車塚古墳、東車塚古墳、茶臼山古墳といった、たくさんの古墳が所在することで有名な地域ですが、それらは古墳時代前期を代表するものばかりで、引き続く中期の古墳が知られていませんでした。今回、西車塚古墳の南に広がる女郎花遺跡を調査していたところ、墳丘の上部を削り取られて地中に埋没していた中期古墳（大芝古墳）の周溝が発見され、中から多量の埴輪などが出土しました。

▲ 大芝古墳の埴輪や土器

梶塚古墳（かじづか）

（城陽市教育委員会）

5世紀
城陽市平川



▲ 梶塚古墳の埴輪列

古墳の裾を取り巻く埴輪列

城陽市平川に所在する梶塚古墳は、久津川車塚古墳の築造直後に、その北に接するように造営された大型の方墳です。梶塚古墳は、これまで行われてきた発掘調査により、一辺約50m、高さ約5.5mの方墳の周囲に幅約10m程の周濠が巡ることが明らかになっています。今回の調査では、墳丘1段目テラスの東南角を構成する埴輪列33基が検出され、墳丘の規模・形態をほぼ確定することができました。それによると、梶塚古墳は、正方形ではなく、菱形に近い不整形な方形墳であることがはっきりとしてきました。

▲ 梶塚古墳の円筒埴輪

弓田遺跡（ゆみた）

（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター）

6世紀
木津町字市坂

▲ 溝内に散乱する土器・埴輪群

◀ 横たわった馬形埴輪

謎めいた土器と埴輪の多量投棄

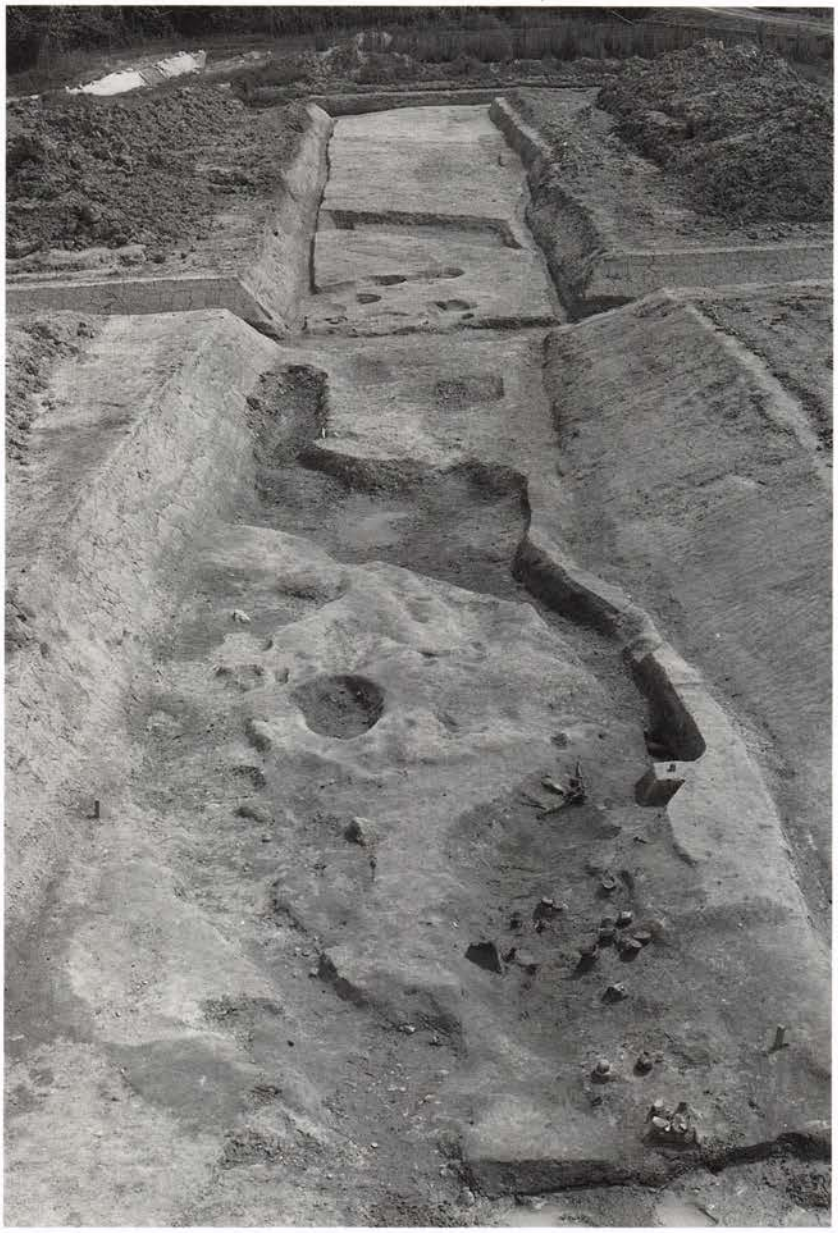
南北方向に小さく弧を描いた幅広の溝の東肩部から、須恵器・土師器・木製品や滑石製玉とともに多種類の埴輪が出土しました。その状況から、古墳の残骸説、埴輪工房説、埴輪集積場説などが提示できますが、いずれも難点があり、むしろ炊飯具やミニチュア土器も含まれることから、集落を取り囲む溝の水辺で祭祀を行ったとする説が有力です。

▼ 珍しい盒子形埴輪

釜ヶ谷遺跡

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)

8世紀
木津町字木津



◀ 水辺での祭祀

人形・土馬などに祈りを込めて

南北に細長い谷間の水田下から奈良時代を中心とした河川跡が、丘陵裾部に並行するように蛇行して調査地全域に広がっていました。その岸辺で土馬や墨書人面土器、ミニチュアカマド、小形墨書人面横瓶などを用いて祭祀を行っていたようで、120cmも測る長大な人形もあります。その他に素弁8葉蓮華文軒丸瓦を含む瓦類から、周辺に7世紀中頃～8世紀に寺院のあったことが考えられます。まさに宗教の坩堝です。

▼ 長さ120cmの大きな人形（右端）

▼ いろいろな祭祀遺物

恭仁宮跡（くにきゅう）　（京都府教育委員会）

8世紀
加茂町字瓶原

◀ 官庁街の巨大な排水用の溝

都の中の巨大な溝

恭仁宮は、奈良時代の中頃に営まれたわずか3年半ほどの短命な都でした。恭仁宮跡では、ここ数年、宮の範囲を確定することを目的に、宮内で広範な発掘調査が継続的に実施されています。今回の調査では、宮内の西方中央部で役所の排水用とみられる東西方向に走る巨大な素掘り溝が検出されました。また、宮の北東部では、北辺築地の外方で南北に延びる石敷きの溝が検出され、多量の土器類が出土しています。

恭仁宮跡から出土した食器 ▶

全容解明が待たれる椿井大塚山古墳

（山城町椿井大塚山古墳、４世紀）

三角縁神獣鏡で有名な椿井大塚山古墳古墳の規模や形状を確定するための調査が開始されました。

（山城町教育委員会提供）

姿を現した大前方後円墳

（京都市黄金塚２号墳、４～５世紀）京都盆地東部で最大の前方後円墳と言われてきた黄金塚２号墳が、後円部の一部ですが埴輪列を伴って初めてその姿を現しました。（花園大学提供）

もうひとつの勝龍寺城

（長岡京市勝龍寺城跡、17世紀）

中世から近世の細川氏の居城として有名な勝龍寺城ですが、江戸時代初頭の永井氏の時期に城の位置が現在のＪＲ長岡京駅付近に移されたことはあまり知られていません。最近の調査では、残された絵図のとおり城跡の遺構が次々に発見されてきています。

（長岡京市教育委員会提供）

展示品リスト

遺跡名	遺物名	点数	時代	保管者
横枕遺跡	青磁椀	1	13世紀	網野町教育委員会
	土師器	7	9～13世紀	〃
	須恵器	4	〃	〃
	施釉陶器	7	9～10世紀	〃
奈具谷遺跡	弥生土器	5	1世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	木製品	3	〃	〃
奈具岡遺跡	玉未製品	一括	〃	〃
	工具	一括	〃	〃
	弥生土器	3	〃	〃
	鉄製品	一括	〃	〃
奈具岡北1号墳	陶質土器・初期須恵器	12	5世紀	〃
	鉄製品	一括	〃	〃
大田南6号墳	石釧	2	4世紀	弥栄町教育委員会
	土師器	6	〃	〃
南谷古墳群	乳文鏡	1	5世紀	久美浜町教育委員会
	須恵器	10	6世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	鉄製品	6	〃	〃
桑原口遺跡	銅鏃	1	2～3世紀	〃
	弥生土器	10	〃	〃
大俣城跡	土師皿	2	16世紀	〃
	陶磁器	17	〃	〃
	瓦質擂鉢	1	〃	〃
土師新町城跡	弥生土器	8	3世紀	福知山市教育委員会
岸ヶ前2号墳	玉類	14	5世紀	佛教大学
	鉄製品	2	〃	〃
	砥石	2	〃	〃
	埴輪	5	〃	〃
平安京右京二条二坊五町	須恵器	2	10世紀	京都市埋蔵文化財研究所
	小石	27	〃	〃
長岡京跡左京二条	二彩小壺	1	8世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	須恵器	5	〃	〃
	土師器	5	〃	〃
	弥生土器	3	前1～2世紀	〃
長岡京跡左京四条一坊	瓦類	4	8世紀	〃
	須恵器	5	9世紀	〃
	施釉陶器	10	〃	〃
	土師器	5	〃	〃
森本遺跡	縄文土器	14	前5世紀	向日市埋蔵文化財センター
中海道遺跡	弥生土器	7	3世紀	〃
	鉄滓	4	〃	〃
	砂鉄	一括	〃	〃
	刀子	1	〃	〃
	鍛造剥片	一括	〃	〃
	砥石	3	〃	〃
東羅古墳群	鉄器	13	6世紀	長岡京市埋蔵文化財センター
	須恵器	2	7世紀	〃
	土師器	1	〃	〃
走田古墳群	須恵器	5	7世紀	〃
	土師器	6	8世紀	〃

遺跡名	遺物名	点数	時代	保管者
白川金色院跡	玉類	一括	12世紀	宇治市教育委員会
菟道遺跡	隆平永宝	9	11世紀	〃
	土馬	1	8～11世紀	〃
	帯飾り	2	〃	〃
	青磁椀	1	13世紀	〃
	土師器皿	4	〃	〃
幸水遺跡	弥生土器	5	2世紀	八幡市教育委員会
	庄内式土器	1	3世紀	〃
	鉄器	2	〃	〃
大芝古墳	円筒埴輪	3	5世紀	〃
	線刻埴輪	3	〃	〃
	家形埴輪	1	〃	〃
	須恵器	2	〃	〃
梶塚古墳	円筒埴輪	3	〃	城陽市教育委員会
弓田遺跡	土師器	一括	6世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	須恵器	一括	〃	〃
	埴輪類	17	〃	〃
釜ヶ谷遺跡	墨書土器	6	8世紀	〃
	土馬	3	〃	〃
	ミニチュア炊飯具	10	〃	〃
恭仁宮跡	土師器	一括	〃	京都府教育委員会
	須恵器	〃	〃	〃
	瓦類	〃	〃	〃

凡　例

1. 本図録は、1996年8月17日～9月1日の第14回「小さな展覧会」の展示図録である。
2. 展示資料は、㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター及び各機関が主として1995年度に発掘調査を行った遺跡・遺物を対象とした。
3. 展示資料品中、都合により員数等が異なる場合がある。
4. 資料調査、図録作成、展示資料借用にあたっては、次の機関からご指導、ご協力を受けた。（順不同・敬称略）久美浜町教育委員会・網野町教育委員会・弥栄町教育委員会・福知山市教育委員会・佛教大学・花園大学・㈶京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館・㈶向日市埋蔵文化財センター・長岡京市教育委員会・㈶長岡京市埋蔵文化財センター・八幡市教育委員会・宇治市教育委員会・城陽市教育委員会・山城町教育委員会・京都府教育委員会。
5. 本図録は、㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター調査第1課と京都府立山城郷土資料館が分担して作成した。

KYOTO
ARCHAEOLOGY CENTER

第14回 小さな展覧会　発行日／1996年 8 月17日

編集・発行／財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター　〒617　向日市寺戸町南垣内40-3　TEL.075-933-3877　印刷　三星商事印刷㈱

主催　財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
後援　京都府教育委員会
協賛　向日市文化資料館